

# 施設と学校との相互交流 ～生まれる 広がる 小さな理解者～

施設と学校との相互交流を通じて、児童に高齢者や認知症に対する理解を深めてもらう活動を実施。福祉理解が進むように、内容は計画性を持って、継続して取り組んでいる。

社会福祉法人 **サンライフ**

〒509-0143 岐阜県各務原市鵜沼小伊木町3-170-1  
TEL：058-379-5411/FAX：058-370-9211/E-Mail：a-ohashi@e-sunlife.or.jp

## 【法人の概要】

法人設立年：昭和62年  
経営施設、特別養護老人ホーム 8 施設  
定員計840床（ショートステイ含む）  
全室個室・ユニットタイプ4施設  
（特養350床・ショート62床）  
従来型4施設（特養364床・ショート64床）／介  
護老人保健施設…3施設（定員348床）／ケアハ  
ウス…3施設（定員160名）／ケアハウス（特定  
施設）…1施設（定員29名）／デイケア  
3施設…（定員180名）／グループホーム…12施設  
（定員計135名）／生活支援ハウス…2施設  
（定員計25名）／小規模多機能型居宅介護  
…2施設／その他訪問介護…4／訪問リハビリ  
…1／居宅支援事業…9／在宅介護支援センター  
…1／地域包括支援センター…4／福祉用具レン  
タル…2／ホームヘルパー養成事業…2

愛知県（名古屋市、春日井市、江南市）岐阜県（各務原市）、長野県（下諏訪町、岡谷市、辰野町、箕輪町、木曾町）において、高齢者福祉施設を経営している法人です。  
平成19年度は、名古屋市熱田区、愛知県春日井市、長野県岡谷市で新規施設を予定しています。  
毎年、海外研修を行っています。（サンフランシスコ・オーストラリア）  
毎年、アメリカから臨床心理士を招き、利用者様と職員の心のケアについての研修会を行っております。  
研修センターを設置し、各職種に応じた研修会、資格取得に向けた勉強会を実施しています。  
50事業所でISO9001を取得し、利用者様本位のサービス充実に努めています。

## 【法人の理念・経営方針】

利用者様の立場になって考えましょう。  
利用者様の生きてこられた人生・価値観を理解しましょう。  
利用者様の声、希望を無視しないで耳を傾けましょう。  
利用者様の気持ち、体を傷つけるようなことは絶対許されません。  
施設は孤立してはいけません。家族地域との連携を考えましょう。  
法律、その他基準に従って運営を行います。福祉事業の変化と改革の先駆者となるよう、常に組織・運営を見直します。  
＜使命＞  
プロフェッショナルとしての最高の福祉サービスを創造する。

## 実施施設の概要

施設名：ジョイフル各務原  
施設種別：特別養護老人ホーム（80）  
ショートステイホーム（20）  
デイサービス  
一般型（35）  
認知症型（12）  
グループホーム（9）  
居宅介護支援事業所  
地域包括支援センター  
活動開始年：平成16年6月  
活動の対象者：地域の小学校とその関係者

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

平成15年4月にユニット型の施設として開所し、何もかもが始めての中「地域の中の施設として何ができるのか？」それを求めてやまない日々が続いていた。ある時期に、学校の先生とお会いする機会に恵まれる。その出会いから、小学校総合学習での相互交流の開始となった。先生との打ち合わせを重ね、活動内容と狙いが完成した。

### 活動内容

#### 施設への訪問（年4回）

- ①施設へ訪問（訪問ユニットを年間通して固定）
- ②毎回、交流開始前にアドバイスと交流終了後に反省会を実施

#### 学校への訪問

- ①施設の利用者が学校の行事に参加、児童達による接待を受ける
- ②施設職員による教育訪問も実施

### 狙い

学校側の狙い「児童の考える力の向上、お年寄りと接する機会」  
施設側の狙い「利用者様の笑顔、地域に出る機会の確保」  
双方の願い「高齢者や認知症に対する地域全体への理解が深まること」

## 実施内容

### 【活動内容】

#### 〈施設への訪問交流（小学校→施設）〉

事前にお年寄りが楽しんでもらえることを考え、レクリエーションなどの準備をし、施設への訪問の際に取り組んでみるといった内容である。小学生の居室等への訪問先については、利用者の事前了解のうえ、固定して実施している。

#### 〈学校への訪問（施設→小学校）〉

学校で行われる行事にはとにかく参加している。運動会では到着すると、児童達がお茶を出してくれ、接待を受ける。収穫祭は学校運動場での地域のイベントとして実施さ

れ、焼き芋や各クラスでのゲームコーナーなどがあり、利用者が引っ張りダコになる。

〈学習発表会（活動最後の晴れ舞台）〉

1年間の総まとめとなる児童達の発表の場である。PTAなども、参加されており、まるで児童たちを通して、子ども、大人、お年寄り皆が、自分たちの発表のように少し恥ずかしいような嬉しいような、そのような気持ちにさせてくれる。

### 活動効果

今回の活動として、計画性を持って1年を通しての相互交流ができたことが何より良かったと思う。そして、3年目としての活動を生んでいる。この「当たり前前の継続」が大きな成果のひとつである。

#### 学校側の狙いより

回数を重ねるにつれ、レクリエーションの内容はわかりやすい紙芝居、うさぎを連れてきてくれる等へと変化をみせる。活動ユニットを固定したことから、利用者に合わせて配慮がみられるようになった。

#### 施設側の狙いより

やはり子供との触れ合いはいいものである。地域に出る機会に恵まれたことが大きかった。この活動をきっかけに、施設の外出システムの簡略化が進み、通常での外出も増加の一途をたどっている。

#### 双方の願いより

最終的な目標は、地域への理解を広げることである。小さな理解者達（児童たち）の周りには先生と家族という存在があり、その方たちへの理解を広げていくことも重要な事と常に考えている。毎回の反省会で「今日のことを家族の人と話してね」と伝え続けている。小さな出合いを積み重ねていくことがお互いに自然な関わりとなったのではと実感している。

### 今後の課題

振り返ってみると、いろいろなことが思い出される。今回の活動は“地域に出ること、地域から来てもらうことは当たり前のこととしてできる”そのような施設を目指していた私たちにとってありがたいことであった。これからも一步一步、地域の方々と歩幅を合わせて歩んで行

きたい。そして、地域の方々への高齢者や認知症に対する理解が、自然に広がって欲しいと思う。また、今回の活動が、1回であったり、数回にわたったりと様々であるが、他の小中学校などにも広がりを見せている。それ自体は成果と言えるが、介護実習などの受け入れもあり、施設側の受け入れの限界から、調整に多少の課題を抱えている。

平成17年度の活動状況は以下の通りである。

【学校】	5月21日	地域ふれあい音楽鑑賞会へ参加（利用者6名、職員4名）
【施設】	6月21日	施設見学訪問（5学年全体）
【施設】	6月30日	5年2組・7月5日 5年1組 第1回目施設交流
【学校】	7月7日	出前講座の実施（職員による講座）
【学校】	9月23日	運動会へ参加（利用者8名、職員4名）
【施設】	11月10日	ジョイフル焼いも大会（5学年全体）
【学校】	11月19日	収穫祭に参加（利用者8名、職員5名）
【施設】	11月22日	5年2組・11月24日 5年1組 第2回目施設交流
【施設】	12月1日	5年2組・12月6日 5年1組 第3回目施設交流
【施設】	1月25日	陵南小PTA介護教室
【施設】	2月7日	5年2組・2月14日 5年1組第4回目施設交流
【学校】	2月24日	学習発表会へ参加（利用者7名、職員4名）

ほかにも、暑中見舞いや年賀状など、間接的な交流も実施している。

